



野庭すずかけ小だより

8・9月号

横浜市立野庭すずかけ小学校
2024(令和6)年8月27日
TEL 842-3105

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nobasuzukake/>

『知覚動考（ちかくどうこう）』

校長 幸柳 康弘

いくら知っても、いくら覚えても、動かなければ何も変わらない。やってみて初めて分かることもある。動きながら気付き、考える…。

「知覚動考」は、もともと仏教や禅の言葉の一つで、人の成長のプロセスを言い表しているようです。「知って、覚えて、動いて、考える」成長速度が速い人ほど、知って覚えたことをすぐに行動に移せる人だということだそうです。最近では、目まぐるしく変わる世界情勢や金融取引等でも人材育成のキーワードとして使われ、言葉の読み方を変えて“ともかくうごこう”と職員の合言葉にしているところもあるようです。

“予測不可能な未来”“目まぐるしく変容する社会”少なからず教育の場においても確実に波は押し寄せています。新しい学習指導要領が改訂され早くも7年が経ちます。その中には、未来ある子どもたちにどんな「資質・能力」を育むかが示されています。

- 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識及び技能」の習得）
- 理解していることやできることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成）
- どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

『知覚動考』の考え方が教育においても通ずる部分が多様にあります。教科等で知り覚えた知識・技能を、問題解決的な学びの場で実際に活用する。活動の結果を分析・検証し、次の活動に展開していく。また、この学びのサイクルの中で活動が自分事となり、子どもたちが学びの当事者、主体的な学び手となっていくことにも繋がります。

夏休みが明け、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。秋には「運動会」「修学旅行」「宿泊学習」「観劇・鑑賞」「遠足」など、子どもたちがわくわくする行事が盛りだくさんです。また、日常の学習でもリアルな教材を求め、教室を離れ地域に出て学ぶことも多いと思います。

『知覚動考』し、主体的な学び手として躍動する子どもたちに、温かな励ましの言葉かけをどうぞよろしくお願いいたします。